

筆道資料の探訪

梅宗園手録

梅宗園手録は、古代からの製筆法の筆三十六法秘伝書です。製筆四海堂十代目の増井惣兵衛がこれを伝えました。筆匠増井惣助は、明治十四年三月、第二勸業博覧会に初めて出品しました。

京都の筆工藤野又六が、大師流の古製の筆を作ったといわれています。その伝統を守っているのが藤野雲平で現在も十四世雲平氏は琵琶湖畔の安曇川町に住んで有栖川流専用の巻筆を造り続けています。

この梅宗園手録の裏に「写服和五十一年一月、十四世雲平」と書記されており、増井家に懇請して筆匠藤野雲平氏が記録を書写されたものと思われま

惣助は、製筆に用いる原毛についても次のように述べています。

- 第一、身ヲ思フ毛
- 第二、風ヲ除ル毛
- 第三、雨を除ル毛
- 毛物類ヲ三通り後能有事ヲ知ル、筆ニ製スルニハ雌ヲ第一トスルナリ

極強毛ズイ穴有テ緒
ニキクナリ
大中小筆用処数多有
強弱ハ其立地に寄テ
善悪アリ

羊毛

郷猫
三毛猫ハ白キ所兔毛ト云黒キ所鼠毛ト云赤キ所赤兔トモ云フ又玉毛ト言是ノ走リ

筆匠梅宗園

増井惣助
雄ヲ山馬ト言フ
雌ヲ枇杷色ト言フ



梅宗園手録

毛ヲ用極
秘密ノ法
ナリ
資料提供
(有馬町
藤井清
氏)